

令和7年度 農業委員会だより 第2号

広報にいじま お知らせ版 No.28

発行：新島村農業委員会事務局（新島村産業観光課内） ☎ 5-0284（直通）

これってもしかしてSDGs？

今年の3月某日、島にある廃材を再利用したビニールハウスを建てました。春からハウスの中でサツマイモの苗を育て、夏の酷暑に耐えながら畑で順調に成長しており、秋の収穫が楽しみです。

なぜ新品ではなく廃材を使用したかという答えは単純で、「ビニールハウス 値段」とChat GPTに聞いた回答が恐ろしく高いことでした笑。価格高騰を理由に半ば諦めかけていた時に、農家の大先輩に相談したところ、使わなくなったビニールハウスの部材を再利用して良いというお話をいただき、無事着手することができました。一人作業ということもあり、解体↓開墾↓組立↓完成まで約半年かかりましたが・・・今ではいい思い出です。協力していただいた皆様ありがとうございました。

この何気ない経験を今振り返ってみると、当たり前のように耳にするSDGs目標の「12 つくる・責任つかう責任」、「15 陸の豊かさを守ろう」に貢献できたのかなと思っており、「ゴミと言われるものが宝になることを肌で感じました。農を通してですが、まだ見ぬ宝を掘り当てることにワクワクしています。

そつだ畑、行こう。

新島村農業委員 広川直人



← 完成したハウス内のサツマイモ苗



担当者ぐあいさつ

7月より、農業委員会の担当となりました、産業観光課農林係の梅田拓也（ジンダ）と申します。

年度途中の異動で戸惑いもあり、まだまだ至らないことも多く不安ではありますが、これからの新島村の農業振興に少しでもお役に立てたらと思います。

今年は私自身でも、大場所の畑にあまりか芋を植え、畑にチャレンジしていますので、見かけたら声をかけていただけたら嬉しいです。

新島村産業観光課

梅田 拓也



→ 大場所のあまりか芋

令和7年度農地利用状況調査を終えて

農業委員会では、現在農地がどのような状況かを毎年調査して東京都に報告しています。自分の担当した若郷地区は、久田巻地区以外は山間に狭い畑が多く点在しています。以前はもっと活発に農地として利用され、先人たちはこのような場所で耕作していたのかと思うと頭が下がります。農地の集積化により広く開墾される一方で、山間ではここは農地なんだろうか？と考えるように山林化している場所もありました。ただ自営的農家の方々が一部頑張って耕作されています。新島の農地はこのような方々に生かされているのだと思います。



この調査を基に農地の所有者に利用意向調査を行い、農地の最適利用に向けて改善していきます。耕作意思の有無、今後の見通し等を返答いただけると幸いです。登記上の精査（名義、地目など）も推し進められると今後の調査もしやすくなります。

皆様のご協力をお願いいたします。

新島村農業委員 植松 由美子



シカ捕獲者の雇用形態が変わる

今年度より、鹿の捕獲業務が農業協同組合による雇用へと変わり、捕獲員は有期契約社員として活動しています。

現在、20代から70代までの7名（20代1名、40代1名、60代1名、70代4名）で、若郷、宮塚山、向山、平地の4つのエリアを中心に活動していますが、今後のことを考えると、人数的にもマンパワー不足を感じています。

鹿の個体数管理はすぐに終わるものではなく、地域の大切な農業や生活を守るために、これからも継続して取り組んでいくべき重要な仕事です。

仕事のあり方も少しずつ変化していますが、地域の農業と農地を守るため、新たな力を必要としています。少しでも鹿捕獲業務に興味を持っていただけたら幸いです。

農地利用最適化推進委員 前田 互

